

ひょうたけいけ

桜台小 6年生だより
令和4年 2月 9日
人権特別号



1月に6年生で人権学習の授業を行いました。その時に「差別する」の反対語は「尊重・尊敬する」ことだと話しました。「『尊敬する』では言いすぎだ」と思う人がいるかもしれませんが、どんなに欠点が多い人でも尊敬できるところが必ずあります。人の尊敬できる側面を見ることで、人と人とは平等で対等な関係になれます。その人のことを全面的に尊敬できなくて否定し、批判するところがあってもいいと思います。しかし、尊敬する面と必ずセットでその人と付き合っていくことがとても大切なことだと思います。道徳のある教科書に「リスペクト アザース」という中学3年生の書いた作文が載っています。「尊敬する」という意味がよくわからないという人もいると思うので、授業後に自由宿題として読んでもらいました。何人かの6年生が感想を寄せてくれたので、少し紙面を借りて皆さんに紹介したいと思います。

- 私が今まで日本で暮らしてきて、あたりまえだと思ったことがあたりまえではないと思うことにびっくりしました。自分ができることを広めすぎると「自慢だ」と言われることはあたりまえで、そう言われないうに工夫することが私のあたりまえだと思っていました。「リスペクト アザース」が浸透している国では、「自慢だ」と思うことがまずないことに驚きました。「リスペクト アザース」が、私たちにとってかけがえのない言葉になるように、日本にも浸透してほしいです。
- 言葉の意味も分からない保育園や幼稚園の子どもたちも「リスペクト アザース」と言っているぐらい、アメリカのサンディエゴでは大切にされていた言葉なんだと感じました。差別することがあたりまえのように生活していること自体がおかしいことだと、もっと一人ひとりが気づいていくべきだと思いました。
- 自分が軽い気持ちで言った言葉で相手を傷つけてしまわないように、今度から自分も気を付けたいです。
- 私は「リスペクト アザース」を読んで、ふと思ったことがあります。それは幼い時にサッカーをしていて、仲間がオウンゴール(自分のチームのゴールに間違えて入れてしまうこと)をしてしまって、仲間のことを責めてしまったことです。あの時に戻ってオウンゴールしてしまった仲間に「気にしないで」と言ってやりたい気分になりました。
- 「リスペクト アザース」は「他の人のことを尊重しなさい」という意味だけれど、「意地悪しないでみんな仲良くしなさい」という意味にもとれるので、いい言葉だと思いました。
- 資料の主人公は、日本で自分がうまくできたことを周りの人に話すと「それは自慢だ」と言われて、とても悲しかったと思います。私も資料の主人公の主張と同じように、日本で「リスペクト アザース」が広がって、人のことを尊敬しなければならないと思いました。
- この文章を読んで最も心に残ったのは、「リスペクト アザース」の言葉が、問題を起こしてしまった考え方を問題だという意味になるという所です。人はそれぞれ全く違う考えを持っていて、私は相手の考えを完全に分かり合うのは無理だと思います。でも、それを認め合うか、否定するかで世界は大きく変わります。人は「ちがう」ことで差別したりするけれど、それを仕方のないことだと終わらせてしまうのはおかしい、という思いがこの文章にはあるように感じました。日本にも昔から男女で差別されることがありました。それははじめあたりまえで、問題だとすら思われていなかったのに、「おかしい」と思った人がいて今のように変わりました。人種差別もつい最近まであたりまえだったのに、それを反省し、社会が変わったことは、世界中での差別に関係する問題を解決するために見習うべきことだと思いました。あまり問題として目立たないことでも、誰かが「おかしい」と思えば変えなければならないはずで、「リスペクト アザース」は、お互いを認め合い、誰一人取り残さない世界の実現へ近づく言葉だと感じました。



水平社宣言の「尊敬」には、人の存在そのもの、生きている事そのものが尊いという理解が基本にあります。当時、西光万吉やその仲間たちは「人の世に熱あれ 人間に光あれ」という結びの言葉にどんな思いを託したのでしょうか。2022年3月3日で全国水平社創立100年を迎えます。100年前の差別をなくそうとした先人たちの思いに心をはせ、ひと(相手)を大切にする意味を一人ひとりが振り返るきっかけになればと思います。裏面に「リスペクト アザース」を資料として載せておきます。よければ保護者の方にも読んでもらってください。(文責 北住 昌文)